

病害虫情報 NO.1

茨城県病害虫防除所

麦類赤かび病の適期防除を徹底しましょう！

〔防除適期：大麦－穂揃期，小麦－開花最盛期（出穂後7～10日）〕

赤かび病は、麦の収量や品質に影響を及ぼすだけでなく、本病原菌が産出するかび毒（DONなど）によって人畜に中毒症状を引き起こすことがあります。このため、農産物検査規格が改正され、平成15年産麦から食用麦の赤かび病被害粒の混入限度が0.0%と厳しくなりました。高品質で安全・安心な麦づくりのため、赤かび病の適期防除を徹底してください。

〔現在の状況〕

- ① 農業総合センター農業研究所（水戸市）の出穂予測（4月15日現在）によると、六条大麦，小麦ともに，出穂期は平年より1～2日程度遅いがほぼ平年並と予想される（表1）。

表1 麦類の出穂予測（農業総合センター農業研究所，水戸市，4月15日現在）

| 麦種 | 播種期 | 出穂期 | | |
|--------------|--------|--------|-------|-------|
| | | 本年(予測) | 平年 | 前年 |
| 六条大麦（マサカドムギ） | 11月5日 | 4月17日 | 4月15日 | 4月14日 |
| 小麦（農林61号） | 11月5日 | 4月27日 | 4月26日 | 4月23日 |
| 小麦（農林61号） | 11月22日 | 5月3日 | 5月1日 | 4月30日 |

- ② 向こう1か月の気象予報（4月15日発表）によると，気温・降水量とも平年並と予想されている。しかし，出穂期から開花期にかけて気温が20℃以上と高く，降雨が続くなど多湿条件が続いた場合は，病原菌の飛散が多くなり，赤かび病の発生が助長されるので，今後の気象に注意する。

〔防除対策〕

- ① 防除適期は，大麦では穂揃期，小麦では開花最盛期（出穂後7～10日）である。防除適期を逃すと効果が著しく低下するため，麦の生育状況に十分注意し，表2を参考に薬剤散布を行う。また，1回目の散布後，7～10日後に2回目の散布を行うと，さらに効果的である。
- ② 薬剤散布後，降雨が予想される場合は，粉剤よりも液剤，水和剤，乳剤，フロアブルなどの方がより高い効果が期待できる。
- ③ 薬剤の使用にあたっては，農薬使用基準を遵守する。
- ④ 収穫時期が遅れると，被害粒から健全粒へと感染が広がる恐れがあるため，適期収穫に努める。

表2 赤かび病に登録のある主な農薬（平成17年4月15日現在）

| 薬剤名 | 希釈倍数・使用量 | 収穫前日数 -本剤の使用回数 | 対象 作物 | 有効成分-有効成分の 総使用回数 |
|------------|--------------|---------------------|----------|-----------------------------|
| トップジンM粉剤 | 4kg/10a | 14-2 ^{注1)} | 麦類 | チオファネートメチル-2 ^{注1)} |
| トップジンM水和剤 | 1,000～1,500倍 | 14-3 ^{注1)} | 麦類 | チオファネートメチル-3 ^{注1)} |
| ストロビーフロアブル | 2,000～3,000倍 | 14-3 | 麦類 | ケリキムメチル-3 |
| コロナフロアブル | 400倍 | —-5 | 麦類 | 硫黄-5 |
| ベルコート水和剤 | 1,000～2,000倍 | 21-5 (出穂期以降は2回) | 小麦 | イミダクジン-5 (出穂期以降は2回) |
| ベフラン液剤25 | 1,000～2,000倍 | 21-5 (出穂期以降は2回) | 小麦 | イミダクジン-5 (出穂期以降は2回) |
| チルト乳剤25 | 1,000～2,000倍 | 3-5 (春期以降は3回) | 小麦 | プロピコナゾール-5 (春期以降は3回) |
| | 1,000～2,000倍 | 21-1 | 大麦 | プロピコナゾール-1 |

注1) トップジンM粉剤，トップジンM水和剤は，共に同じ有効成分ですが，有効成分の総使用回数が異なります。トップジンMを使用する際は，有効成分の総使用回数を，規制の厳しい2回までとしてください。

※農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法，注意事項等を確認のうえ使用してください。